



石神井南中学校 学校だより

令和 3年度 第 2 号
発行日 5月31日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

『ルールは守る。』

校長 田邊 克宣

表題の意味について、皆さんはどう理解しましたか。

主語を言外の“私”と解釈すれば、“ルール”は意味的に目的語となり、「私はルール<を>守る。」という趣旨になります。一方、ルールを主語として捉えると、今度は目的語を補う必要が生じます。一体、ルールは何を守るのでしょうか。

人が二人以上そろえば、そこには互いの権利を守るために侵すべからざる領域が存在します。中学生であれば、仲の良い友人や、目標を一にする部活動の仲間や、同級生、先輩、後輩といった、学校生活における他者との関係はもちろんのこと、たとえ家族であっても、一個の人格をもった人と人との関係においては同じことが言えます。

自分がかげがえのないものであることは、自分以外の他者もまた、かけがえのないものであるということであり、その表裏一体の関係を成り立たせるための拠り所として、ルールはあるのです。つまり、「ルールは自分を守る。」であり、同時に、「ルールは皆を守る。」ということなのです。だから、皆がルールを守ることのできる集団は、一人一人の誰もが安心して生活することのできる集団となるのです。

皆が穏やかな心もちで生活するために必要なルールですが、個人的には、できる限り少ない方がよいと考えます。そのあたりの按配は、なかなか難しいところです。

東京都では2020年4月1日から『受動喫煙防止条例』が全面施行となりました。

かつてタバコの吸い方はマナーによるものとされてきました。健康に対する意識が高まるにつれ、喫煙に対する見方も変わり、2002年に千代田区で『路上喫煙禁止条例』が施行されてから、全国に広まりました。マナーに依拠しては、人々の健康、命を守れないということで、必要かつやむを得ないルールの制定であり、それから20年弱を経て、さらに一步踏み込んだ改正となったわけです。

最近では、駅構内などで「エスカレーターは歩かずに、手すりにつかまって」という表示を見かけるようになりました。

50年前、デパートのエスカレーター（当時は駅にエスカレーターはありませんでした。）に乗るときは、親は子供と手をつなぎ、真ん中に乗せてやるものでした。乗り降りの際には、特に小さい子供の場合、親がつないだ手をタイミングよくヒョイと持ち上げてやるのが、普通でした。

35年ほど前のことです。「ヨーロッパの空港では、エスカレーターの片側を空けて歩けるようにしている。日本もそうしたらどうか」という趣旨の新聞記事を読みました。どうもその頃から、日本全国でエスカレーターの片側を空けて乗るという習慣が始まったようです。（諸説あります）

かつてはエスカレーターの乗り方一つとっても、そこには、子供を守るという不文律が常識としてありました。時代の移り変わりとともに、以前は常識であったものがだんだんと通用しにくくなってきたように感じられます。（中には変えてしかるべき常識もありますが）。インターネットの普及に伴い増殖してきたSNS上の誹謗中傷なども、普通に考えればあり得ないことと思うのですが、マナーや常識で律しきれなければ、そこにはおのずとルールが必要となります。

喫煙に対する厳格な対処については、当初、トラブルも生じ、現在でも完全な解決とはなっていませんが、それでも情勢は大きく変わりました。エスカレーターに関しても、“呼びかけポスター”を横目に、未だ多くの人が変わらず片側を空けている現状ですが、これもやがて変わっていくことでしょう。

「止まる人が多くなれば、それが普通の乗り方になるのだ。」

時代は変わります。願わくば、受動的に流されるのではなく、主体的に変えていきたいと考えます。昨今、様々な声が上がりが始めています。かねて言われ続けている、男性やいわゆる健常者の優位性に関わるものから、緒についたばかりのLGBTQ+等々、そこに共通するのは、今まで虐げられたり、疎外されたり、差別の対象とされていながら、上げられずにいた声であるということです。こうした声を支持する反応は以前に比べ大分大きなものとなっています。取組やその成果はまだ十分であるとは言えませんが、少なくとも問題提起が公になされるようになってきたことは、人としての大きな進歩であると思います。

「元々地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」（『故郷』魯迅）

一人一人の皆が、差別される悲しみのない社会を実現させるためには、ルールをしっかりと守るとともに、寛容の精神をもって歩み寄る姿勢が肝要であると思います。

大人も子供も、共に、よりよい社会を目指して歩んでいきましょう。

◇想像から未来へ◇

5月24日(月)、放送による全校朝礼で、校長先生から食べ物に関するクイズが出題されました。「皆さんが体育や休み時間、部活動等で使っている石南中の校庭は、60年前の開校当時、どのように利用されていたでしょうか。」

答えは「キャベツ畑」です。60年前、地主さんからこの土地を譲っていただいたおかげで、新しく校舎を建てることができ、石南中の歴史が始まりました。節目に当たる今、その当時のことに思いをはせ、想像し、考えを広げてみるのが大切であるというお話でした。



話は変わりますが、5月14日(金)、生徒会の最大の行事の一つである、前期生徒総会が開かれました。総会に向け、皆さんは、このバイブルともいべき「議案書」をじっくりと読み込み、考え、議論を交わすことができました。そうした議論の一部分を、委員長さんの答弁とともに紹介します。<給食委員会「月別目標と重点活動」について> 10月「60周年に感謝して食べよう」

○質問 「60周年に感謝して食べるとは？」

○答弁 「私たちの生活の根底には、『食べる』ということがあります。つまり、『給食』というものが、60年間、石南中を支えてきたということになります。『60年前から今日まで続いてきたこの石神井南中学校の歴史や、支えてきた人々へ思いをはせ、感謝の気持ちをもちながら食べよう』という意味が込められています。」

この給食委員の活動案は、後に朝礼で校長先生がお話しすることを実践しようとする取組ですね。

当時を思い浮かべるうちに、自然と未来のことを考えます。「今、自分が思い浮かべているのと同じように、数十年後には、未来の後輩が、同じように自分たちのことを思い浮かべる時があるかもしれない」と。先人への感謝を、自分たちの未来に繋げていきましょう。

(副校長)

オンライン生徒総会のように→



◆熱中症に注意◆

湿度が高く、蒸し暑い日が多くなりました。先週は都内でも真夏日を記録しています。これからは、新型コロナウイルス感染予防対策と並行して、熱中症の予防にも気を付けなければなりません。

- 1) 暑さに身体を慣らしていこう(暑熱順化)
- 2) 高温・多湿・直射日光を避けよう
- 3) 水分補給は計画的、かつ、こまめにしよう
- 4) 運動時は計画的に休憩しよう

～マスクについて～ マスクをしていることで体調が悪くなりそうときは、自分で判断して、遠慮せずにマスクを外しましょう。その際、先生や周りの人にも知らせてください。

◇コロナウイルス感染予防対策◇

これまでは主に、飛沫や接触による感染に注意を払ってきましたが、「エアロゾル」による感染リスクも指摘されています。エアロゾルは、飛沫よりも小さく軽い粒子で、空気中に浮遊します。そのため、特に室内ではこまめな換気が必要です。

手洗い、うがい、マスク着用とともに心がけよう

★接触対策→手指消毒、校内の消毒

★飛沫対策→ソーシャルディスタンス(2m)の確保

★エアロゾル対策→こまめな換気

◆部活動それぞれ活躍中◆

コロナ対策を講じながら、各競技の大会が開催されています。どの部活も頑張っています。

☆おめでとうございませう☆

練馬区中学校生徒総合体育大会バドミントン
女子シングルス第2位 3年 岩本夕奈さん

◇6月の生活目標◇

今月の目標は「**学習に励む**」です。21日から3日間、定期考査が行われます。これまでの学習を一通りおさらいし、定着が不十分なところを補ったり、まだ心配なところを質問したりして、万全を期して考査に臨めるよう、頑張りましょう。